

Imaging Changes and Immune-Checkpoint Expression on T Cells in Bronchoalveolar Lavage Fluid from Patients with Pulmonary Sarcoidosis

古鉄, 泰彬

<https://hdl.handle.net/2324/4784448>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学) , 課程博士

バージョン :

権利関係 : (c) 2021 by the authors. Licensee MDPI, Basel, Switzerland. This article is an open access article distributed under the terms and conditions of the Creative Commons Attribution (CC BY) license.

(別紙様式2)

氏名	古鉄 泰彬
論文名	Imaging Changes and Immune-Checkpoint Expression on T Cells in Bronchoalveolar Lavage Fluid from Patients with Pulmonary Sarcoidosis
論文調査委員	主査 九州大学 教授 新納 宏昭 副査 九州大学 教授 園田 康平 副査 九州大学 教授 石神 康生

論文審査の結果の要旨

サルコイドーシスは未知の免疫異常によって引き起こされる全身性の肉芽腫性疾患である。サルコイドーシスに最も罹患しやすい臓器は肺である。サルコイドーシスは自然軽快する 경우가多いが、時として肺病変が重篤化する場合もある。肺に病変を有するサルコイドーシス患者に関して予後予測因子の詳細は依然として不明であるが、サルコイドーシスの病因に免疫チェックポイント分子が関与していることを示唆する報告がいくつかある。本研究において申請者らはサルコイドーシス患者を胸部CTの所見に基づき2群に分け、両群間で気管支肺胞洗浄液中(BALF)のT細胞が発現する免疫チェックポイント分子についてフローサイトメトリーを用いて比較した。結果、申請者らはCT所見が自然軽快した患者群ではCT所見が改善しなかった患者群と比較してBALF中におけるT細胞上のprogrammed cell death 1 (PD-1)とT cell immunoglobulin- and mucin-domain-containing molecule-3 (TIM-3)の発現が高いことを発見した。結論として、今回の実験からBALF中におけるT細胞上のPD-1とTIM-3の発現がサルコイドーシスの肺病変の予後予測因子となる可能性が示唆された。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士(医学)の学位に値すると認める。